

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2022年度活動報告】

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加 人数
学修支援・教育開発センター	2022年9月30日	オンライン	本学教職員	ルーブリックの活用[ライティングサポートセンターの事例から]	島村 健司(ライティングサポートセンタースーパーバイザー)	龍谷大学ライティングサポートセンターでは、相談対応にあたるチューターの成長度を測るため、ルーブリックを導入しています。2022年度後期より新たに利用する学生に対してもアカデミックライティングに関するルーブリックを取り入れます。このルーブリックは、論証型レポートや卒業論文など、アカデミックライティングの能力が必要な場面において、自分が理解できていることや実際にしたことなどの到達度をはかる指標となります。また、いまの自分を認識することや、つぎに何をすればよいのかを考えるきっかけを作ります。	○	28
	2023年2月1日	オンライン	本学教職員	学習成果の把握への取組みについて～大学院研究科を中心に～	松坂 顕範氏 大学基準協会 評価研究部 企画・調査研究課長	2020年度に本学が受審した第3期認証評価の結果において、多くの長所・特色と並んで改善課題についても提言を受けました。 このたび、この結果を踏まえ、学習成果の把握を中心に改善課題への取組みについて、大学基準協会が基準や評価方法の企画などに関わっている方から直接ご説明いただきます。他大学での先進事例や多く見られる課題事項など、認証評価結果の動向についても、お話しいただく予定です。さらなる改善・向上に向けた理解促進を図る貴重な機会になりますので、ぜひご参加ください。	○	51
	2023年3月2日	オンライン	本学教職員	「データサイエンス・AI入門」の授業展開	藤田 和弘氏		○	30
	2023年3月2日	オンライン	本学教職員	学生による授業観察を通じた授業改善(FD活動)	(学修支援・教育開発センター長)		○	17
	2023年3月9日	オンライン	本学教職員	教学マネジメント—本学の現状と課題—	藤田 和弘氏(教学企画部長) 只友 景士氏(教学部長)		○	71
文学部	2023年度以降実施に向け検討予定						○	-
	2022年6月29日(水) 15:40～16:40	オンライン開催	本学教職員(専任・特任のみ対象)	龍谷大学の課外活動活性化策と教学面での課題—学業と課外活動の両立を支援・実現するために—	龍谷大学学生部長 佐々木 浩雄氏(文学部教授)	本学にはさまざまな入試形態が存在し、また専願制入試のうちの一つに課外活動選抜入試がある。課外活動選抜入試合格者の学業と課外活動とのバランスをはかり、いずれもおろそかにしないために学生部ではさまざまな学修意欲向上の取り組みをおこなっており、一定の成果を上げているが、学部や個々の教員に必ずしも知られていないという現状がある。そこで本報告会では、学生部におけるさまざまな取り組みを詳細に紹介いただくことにより、まずは大学内における活動についての知見を共有し、その上で関係部署や教員間における協力の方法を探るなどして、専願制入試合格者の学修意欲・成績向上につながる施策を検討したい。	○	90
	2022年10月12日(水) 15:40～16:40	オンライン開催	本学教職員(専任・特任のみ対象)	共通セミナースタートアップコース実施報告—IP事業の取り組みとこれから—	三原龍志氏(文学部教授) 許秀美氏(文学部准教授)	文学部では2018年以来、IP事業の一環として文学部IP推進委員会を中心に「共通セミナー(スタートアップコース)」「共通セミナー(アドバンスコース)」「文学部プロジェクト実践入門演習」「文学部プロジェクト実践発展演習」という4つの共通科目を開講し、文学部の学生が「資料調査力」「課題発見・設定力」「論理構成力」「文章表現力」等の人文知の基礎力を獲得することを目指してきた。本FD報告会ではその成果を学内にて広く共有するため、新入生を対象とした「共通セミナー(スタートアップコース)」の現状を報告し、同科目の今後の方向性についても検討するとともに、文学部における初年次教育のあるべき姿について議論する。	○	77
	2023年3月1日(水) 15:40～16:40	オンライン開催	本学教職員(専任・特任のみ対象)	文学部歴史学科日本史学専攻におけるオンライン授業に関する報告	嘉戸一将氏(文学部教授)	オンライン授業はコロナ禍への対応から注目を集めることとなったが、一方で大学教育におけるICTの中長期的活用は必須となりつつある。本学においても「オンライン教育検討会議」等によりICT教育のあり方や課題の検討が進められ、その一環として本格的なオンライン授業を開始することが決定された。2022年度より全学的に試行的な運用が開始され、総括を経た上で、2023年度より恒常的に運用される予定である。 本FD報告会では、試行的なオンライン授業の効果検証を目的として、文学部歴史学科日本史学専攻におけるオンライン授業の状況と効果について報告をいただき、その後にディスカッションをおこなう。	○	69
経済学部	2023年3月1日(水) 15:30～16:00	オンライン開催	本学教職員	学修環境を整える試み—BYODと多様な人材を中心に—	小峯 敦 教授(龍谷大学経済学部部長)	本発表では2つの話題に触れます。第一に、BYOD(Bring Your Own Device)という考えです。第二は、多様な人材が大学に存在する意義です。まず前者について、先端理工学部・農学部・心理学部がノートパソコン等の携帯化を謳っているのに対して、経済学部はその推奨を3年前から打ち出しました。今回は在校生171名のアンケート結果を簡単に紹介し、現実にはどの程度の学生がパソコン等を大学に持参しているか等について、情報を提供します。もう1つは近年の動向で、大学内部に多様性を確保するような情勢です。ここでは設置基準の改訂や他大学の動向を瞥見し、学生の学修環境を総合的に整える意味を考えます。	○	49
	2022年12月1日(木) 12:40～13:25	対面(和顔館210)・オンライン併用	経済学部教員	「リスクと曖昧性の下での企業の投資・配当・現金保有政策」	田 園 (経済学部准教授)	「経済学部の研究力」ワークショップ 2022の第1回目。専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行った。	○	16
	2022年12月15日(木) 12:40～13:25	対面(和顔館210)・オンライン併用	経済学部教員	「家庭のエネルギー選好における情報・リテラシーの役割:計量経済学による分析」	木下 信 (経済学部准教授)	「経済学部の研究力」ワークショップ 2022の第2回目。専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行った。	○	17
	2023年1月13日(金) 12:40～13:25	対面(和顔館302)・オンライン併用	経済学部教員	「市場構造と経済動学—規制・パブルー」	高尾 築 (経済学部講師)	「経済学部の研究力」ワークショップ 2022の第3回目。専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行った。	○	12
	2023年1月18日(金) 12:40～13:25	対面(和顔館207)・オンライン併用	経済学部教員	「腎臓ドナー交換制度に関する私の研究成果:進捗報告と今後の展望」	若山 琢磨 (経済学部准教授)	「経済学部の研究力」ワークショップ 2022の第4回目。専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行った。	○	16
経営学部	2022年5月25日(水) 15:15～16:05	オンライン開催	本学教職員	障がいのある学生への授業支援ツール(UDトーク、ロジャー)活用事例の共有について	障がい学生支援室コーディネーター 瀧本 美子氏、難波 桃子氏	経営学部の障がいのある学生が、授業支援ツール「UDトーク」と「ロジャー」を導入して授業を受講している。これらの授業支援ツールの活用には、授業担当教員の支援も必要である。そこで使用学生の障がいの特性を紹介すると共に、教員に求められる対応や支援ツールを導入することで、どのような効果が得られているかの事例を報告する。	○	21
	2022年8月4日(木) 14:00～	オンライン開催	本学教職員	合同型演習における合同報告会 I	経営学部 坂本雅則ゼミ 濱田崇嘉ゼミ(3年生)	社会人基礎力をゼミで養成することを旨とした経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会 I」を実施する。	○	8
	2022年10月20日(水) 15:30～16:30	オンライン開催	本学教職員	2022年度プログラム科目実施報告会	プログラム科目担当教員	【2022年度プログラム科目実施報告会】 経営学部では、2008年度以降、「現場で学ぶ経営学」をコンセプトとしたプログラム科目を開講し、理論だけでなく実習教育も重視した教育を展開しています。今回の報告会では、プログラム科目の実施状況およびその学習効果について各担当者が報告し、同科目の情報共有を図ることを目的とします。 【スケジュール(予定)】 15:30～「起業論B」実施報告(報告者:秋庭太准教授) 15:40～「地域と企業」および「ものづくりの現場」実施報告(報告者:眞鍋邦大准教授) 16:00～質疑応答	○	13

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加 人数
法学部	1月27日(金) 16:00~18:00	オンライン開催	本学教職員	~合同型演習における合同報告会 II ~	経営学部坂本雅則ゼミ3年生、 濱田崇嘉ゼミ3年生	社会人基礎力をゼミで養成することを目指した経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会 II」を実施する。坂本ゼミと濱田ゼミのゼミ生(3年生)が下級生のチームワークに日常的にコーチングを行った結果から、どのようなことをつかんだのかを成果報告する。	○	7
	12月14日(水) 15:15~16:15	オンライン開催	本学教職員	法学部メンターシッププログラムについて ~社会人メンター制度導入のためのパイロットプロジェクト~	河村 尚志准教授	法学部メンターシッププログラムとは、2019年度に龍谷IP事業に採択され、現在第2期の運用を行う事業である。本取組の主な目的は、主に本学法学部を卒業した社会人をメンター、法学部生をメンティーとする「龍谷大学法学部メンターシッププログラム」という正課外の教育支援システムを開発・導入・運用することによって、学生のキャリア意識形成と人間的成長を促進することである。本取組は、法学部独自のメンターシップ制度の構築を目指す試みではあるが、時間をかけて試行錯誤のうちに同制度の開発とある程度の安定的な運用に成功した際には、そのノウハウを他学部と積極的に共有したりキャリアセンターに提供したりすることで、究極的には、全学的な「龍谷大学メンターシップ制度」(仮称)を創設することを中長期的な目標(3年間のプロジェクト期間の先にある、より大きな目標)として掲げている。その意味では、本取組は、本学にメンターシップ制度を本格導入するための、いわばパイロットプロジェクトとして位置づけられるものであるといえる。今回はこれまで構築してきたノウハウや取り組みの成果について講演を行う。	○	44
国際学部	2022年6月15日(水) 12:40~13:30	オンライン開催	本学教職員	在外研究員事後報告会 (※使用言語:英語) How Do Taiwanese Buddhist Organisations Help to Heal China-Taiwan Relations? Insights from East Asian Medicine	陳 慶昌 (国際学部グローバルスタディーズ学 科 教授)	For many, relations across the Taiwan Strait appears to be an unresolvable sovereignty-cum-security impasse in the Westphalian world. Drawing analogies and metaphors from East Asian medicine (EAM), we reconceive this apparent zero-sum impasse as an inner imbalance of the China-Taiwan 'body' and investigate the possible healing effects of some Taiwanese Buddhist organisations. We identify three interrelated patterns in cross-Strait relations analogous to Spleen qi deficiency, Blood deficiency and yin deficiency. In EAM, the Spleen is associated with holding and its qi deficiency means poor digestion and/or Blood loss. Insufficient Blood is a type of yin deficiency, affecting all the fluids and lubrication of the body. While the cross-Strait movements of people, goods, services and capital have been increasing since the end of the Cold War, the 'body' fails to transform such 'food' into trust or a sense of 'we-ness' as 'Blood'. We argue that cross-Strait Buddhist exchanges are conducive to conflict transformation, although they do not amount to a cure-all. Specifically, Tzu Chi Foundation's charity work and Fo Guang Shan's cultural education in China have cultivated mutual understandings and goodwill at the grassroots level, resembling therapeutic responses that help to relieve some of the symptoms.	○	24
	2022年7月29日(水) 14:00~15:00	和顔館202教室	国際学部専任教員	建物と教育	飯田設計	和顔館を設計した飯田設計による「建物と教育」をテーマにした講演会	○	20
先端理工学部	2023年3月15日(水) 14:00~14:30	オンライン開催	本学教職員	2022年度プロジェクトリサーチを実施して	青井 芳史(先端理工学部教授 /プロジェクトリサーチ運営委員 長)	先端理工学部の新カリキュラムで、「R-Gap (Ryukoku Gap quarter)」期間中のPBL科目として設けられた「プロジェクトリサーチ」を本年度初めて実施した。「プロジェクトリサーチ」は、主体性や課題解決能力を養うことを目的に、個人もしくは少人数のグループで、指導教員と相談しながら学生の自発的な発想で調査・研究活動を行う実験・実習科目である。初めてのカリキュラム実施で、延べ170名を超える一期生がプロジェクトリサーチに取り組み、37すべての企画で最後の報告書の提出まで達成した。報告会では、本年度の実施状況、および次年度以降に向けた課題点等について報告する。	○	84
先端理工学部	2023年3月24日(金) 15:00~16:00	オンライン開催	本学教職員	数字で見た龍谷大学の産学連携の現状と課題	田村光夫氏 (龍谷エクステンションセンター 産学連携コーディネーター)	技術相談件数や企業との共同研究などの産学連携件数・金額という数字を、地域・企業規模・技術分野という切り口で示しながら、龍谷大学の産学連携の現状をお話します。また、それら数字をもとに全国の大学の産学連携に対する龍谷大学の産学連携のポジションについてもお話します。最後に、これら数字で見た龍谷大学の産学連携の現状から大学の経営視点による課題についてもお話します。	○	61
農学部	2022年11月9日(水) 15:15~16:15	オンライン開催	本学教職員	「IRコンソーシアム学生調査」の分析および「農学部4期生の学修状況について」	石原健吾教授(農学部教務主 任/農学部FD委員長)	1. 農学部四期生の学修状況について 農学部四期生の学修状況について、学科別、入学区分などから、単位の取得状況、GPAなどを検証する。 2. 大学IRコンソーシアム学生調査(2021年度入学生対象)の集計結果に基づき、農学部各学科、本学各学部、大学IRコンソーシアム参加大学のデータの分析をおこない、教職員による意見交換を通して農学部の教育改善に向けた検討をおこなう。	○	46
農学部 農学研究科	2022年6月15日(水) 15:15~16:00	オンライン開催	本学教職員	2022年度農学部・農学研究科における 進路実績報告	キャリアセンター 藤崎 智史 氏	農学部四期生及び農学研究科三期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	○	47
	2023年2月24日(金) 15:45~16:45	オンライン開催	本学教職員	農学部・農学研究科オンライン授業科目 に対する検証結果の報告について	植物生命科学科打本弘祐准教授 資源生物科学科ウエンダコーン スミラ講師 食品栄養学科山崎正幸教授 食料農業システム学科山口道 利准教授	「2021 龍谷大学ICT教育(オンライン教育含)推進計画」「オンライン授業実施要件」及び「オンライン(オンデマンド)授業推進方策」に基づき、各教学主体が展開するオンライン授業科目の試行的な運用を開始しており、農学部からは5件、農学研究科からは4件を選定している。今般、2023年度以降の本格的な実施に向けて、各授業科目の受講者を対象に実施した「オンライン授業科目に関する学習状況アンケート」結果からオンライン授業としての工夫点、教育的効果、到達目標の達成度、成績評価・成績分布などについて報告を行う。	○	52
短期大学部	2022年7月6日(水) 15:30~16:30	大会議室(対面開催)	本学教職員	知的障がい者オープンカレッジふれあい 大学課程と樹林のあゆみ	加藤 博史 先生(龍谷大学名誉 教授) 河波 明子 先生(社会福祉法 人向陵会)	知的障がい者オープンカレッジふれあい大学課程は今年度で20周年を迎える。ふれあい大学課程や樹林について、始まった経緯やこれまでのあゆみについてを理解し、大学の社会貢献について考える機会とした。	○	19
	2022年10月19日 (水) 15:30~17:00	深草学舎和顔館B106 教室 (対面実施)	本学教職員	社会福祉、こども教育におけるルーブリック の活用について	北川 明先生(順天堂大学保健 看護学部 精神看護学領域)	ルーブリックの基礎を学び、実習教育への活用を検討する機会とするため、座学および演習で実施した。	○	19

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加 人数
文学研究科	未開催 (学部FDで開催)	オンライン	本学教職員	オンライン授業環境の課題と検討	-	昨今オンラインでの講義、研究指導または履修指導の機会が増加していることを受け、対面とオンラインにおける授業環境のメリット・デメリットについて検討する予定とされていた。 本テーマは、文学部・文学研究科での共通事項であり、学部FD活動で取り扱われることから、文学研究科単独での開催は見送った。文学研究科構成員は文学部教授会構成員である)	○	-
実践真宗学研究科	7月20日(水) 11:00~12:00	オンライン開催	本学教職員	実践真宗学研究科の原点と特色 —『実践真宗学研究科設置の趣旨』に学ぶ	文学部真宗学教授 鍋島直樹氏	2009年に文部科学省に認可された『実践真宗学研究科設置の趣旨』、および2019年『実践真宗学研究科創設一〇年総括書』を踏まえて、実践真宗学研究科の原点と教育研究の特色と改革を確認したい。その教育研究の取り組み実績を礎にして、実践真宗学における宗教的実践の基本姿勢をまとめておきたい。これにより、大学院における授業内容(実習を含む)のさらなる改善と入試の在り方を考える契機とする。	○	13
	-	オンライン	本学教職員	臨床現場における”多職種連携”における 仏教・仏教者の果たしうる役割について考える	杉岡孝紀(コーディネーター)他	臨床現場において”多職種連携”の重要性が指摘されている。専門性を有する医療従事者(医師、看護師、介護士等)と共に、患者・要介護者の持つニーズや思いに対して、仏教・仏教者としてどのように貢献できるかを考える。 (実践真宗学研究科では、看護師・介護士など臨床現場の専門職者と大学院生がともに学び刺激し合う新たな教育プログラム「多職種連携プログラム」を構想中。)	○	-
	-	-	本学教職員	大学が推進する「仏教SDGs」を科目の中 に組み込むための具体的な検討(仮)	-	仏教SDGsとは「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた阿彌陀仏の攝取不捨の心と「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に共通点を見出し、大乘仏教的な視点から現代の諸課題に実践に取り組むことを目指すものであり、それは実践真宗学研究科における社会的実践の課題と重なる面が多々ある。そこで、院生のより主体的で能動的な研究を促進させ、且つ本学の仏教SDGsの推進に寄与する目的で、現在開講している科目における授業内容の発展・改善を志向する。	○	-
	-	オンライン	本学教職員	実習科目に関わるオンライン授業の様々な 取り組みと課題の共有(仮)	-	実践真宗学研究科には多くの実習を含んだ科目が置かれており、新型コロナの感染拡大の影響によって現地実習を行うことができなかつた期間、科目担当者は実習の代わりにどのような授業を行ったのか。オンライン実習の代替などの取り組みと、そこで明らかになった問題を教員間で把握し、ポストコロナ時代における大学院講義の改善を目指す。	○	-
経済学研究科	2023年3月15日(水) 15:00~15:15	オンライン開催	本学教職員	研究科における博士後期課程の修了要件 について	大原盛樹教授(経済学部)	他大学(経済学系)および本学他研究科の博士課程修了要件をその目的とともに概観する。その上で、本学経済学研究科の現状と比較し、課題と改善の方向性について論じる。3年の標準修業年限で博士号を獲得する(オーバーダクターをできるだけ出さない)という目的の妥当性をまず考える。その上で、それを促す制度である制度(博士論文提出要件等)として何が適切なものかを考える。特に査読付学術雑誌での論文掲載に関する各種の条件が鍵になると思われる。他大学および本学他研究科の具体的な事例を比較しながら、本研究科の現実にふさわしい条件を考察したい。	○	28
経営学研究科	2023年3月28日(火) 15:00~17:00	オンライン開催	本学教職員	早期履修制度を活用した大学院新コースの あり方について	坂本雅則(経営学部教授)	昨年度まで龍谷経営サロンで取り組んできた、留学生コースの再編成について、2022年度、大連外国語大学や北京連合大学との新協定を締結することができた。 2023年度以降は、新たに「学部教育との有機的結合を通じた学部学生の教育充実化」をコンセプトとして、早期履修制度を活用し、学部の3年間と院の2年間の計5年間で「競争力人材」を育成しようという新コースの具体的な実施案について検討します。 今回のFDでは、上述した競争力人材養成コースの早期実現の策について議論を行います。	○	-
国際学研究科	2022年6月15日(水) 12:40~13:30	オンライン開催	本学教職員	在外研究員事後報告会 (※使用言語:英語) How Do Taiwanese Buddhist Organisations Help to Heal China- Taiwan Relations? Insights from East Asian Medicine	陳慶昌 (国際学部グローバルスタディーズ学 科 教授)	For many, relations across the Taiwan Strait appears to be an unresolvable sovereignty-cum-security impasse in the Westphalian world. Drawing analogies and metaphors from East Asian medicine (EAM), we reconceive this apparent zero-sum impasse as an inner imbalance of the China-Taiwan 'body' and investigate the possible healing effects of some Taiwanese Buddhist organisations. We identify three interrelated patterns in cross-Strait relations analogous to Spleen qi deficiency, Blood deficiency and yin deficiency. In EAM, the Spleen is associated with holding and its qi deficiency means poor digestion and/or Blood loss. Insufficient Blood is a type of yin deficiency, affecting all the fluids and lubrication of the body. While the cross-Strait movements of people, goods, services and capital have been increasing since the end of the Cold War, the 'body' fails to transform such 'food' into trust or a sense of 'we-ness' as 'Blood'. We argue that cross-Strait Buddhist exchanges are conducive to conflict transformation, although they do not amount to a cure-all. Specifically, Tzu Chi Foundation's charity work and Fo Guang Shan's cultural education in China have cultivated mutual understandings and goodwill at the grassroots level, resembling therapeutic responses that	○	24
理工学研究科	6月20日(月) 12:40~13:20	オンライン開催	本学教職員	ルーブリックについて	沖裕貴氏 (立命館大学教育開発推進機構 教授)	本講演では、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の定義、利用方法とその効果・留意点、ルーブリックの種類や海外での事例、DPの達成度の検証への応用方法、さらに具体的な採点用ルーブリックの作成方法について事例を挙げながら解説します。ルーブリックやパフォーマンス評価を身近に感じていただければ幸いです。	○	65
社会学研究科	11月2日(水) 15:30~16:30	オンライン開催	本学教職員	大学におけるキャリア開発の新展開 ~TOYAMA採用イノベーションスクールの 取り組み~	尾山真氏 (富山大学学術研究部教育研究 推進系准教授・地域連携戦略 室副戦略室長)	富山大学COC+(地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)において開発された、地域企業の採用担当者向け勉強会「TOYAMA採用イノベーションスクール」の実施に至るまでの、データ分析を活用した開発の経緯や、採用やマーケティングといった専門領域の講師を招きワークショップ形式で各社の採用手法を開発する実施内容、地域における産学官金の連携による運営などその特徴を紹介した。	○	30
農学研究科	2022年9月14日(水) 15:15~16:00	オンライン開催	本学教職員	第2回 龍谷 食と農のサイエンスセミナー	土岐 精一 (植物生命科学科 教授) 嶋田 大作 (食料農業システム 学 准教授)	タイトル:植物育種を加速させるゲノム編集技術 報告者:土岐 精一 教授(植物生命科学科 植物ゲノム 工学研究室) 内 容:ゲノム編集技術は標的遺伝子を破壊する技術から、精密に改変する技術に発展してきている。本研究紹介では、植物育種における精密ゲノム編集技術の現状と展望について、演者らの研究を中心に紹介する。 タイトル:北欧の万人権 報告者:嶋田大作 准教授(食料農業システム学 地域農業・環境経済学研究室) 内 容:自然や農地は誰のものか。私的所有権制度を前提としつつも、土地の公益的な機能を発揮させる仕組みとして、北欧の万人権について研究しています。本研究紹介では、研究の背景や現時点での成果について紹介	○	61

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加 人数
	2022年12月7日(水) 15:15~16:05	オンライン開催	本学教職員	研究成果の知的財産化について ～農学部における実用新案登録出願の 事例から～	神戸敏成 (資源生物科学科教授)	研究活動によって得られた知的創作の成果は、論文として発表されるとともに、知的財産として社会に還元する必要がある。知的財産を積極的に社会に還元しつつ、同時に社会の要請に応える研究活動を創造するための方策を、農学部の事例から考察したい。 本FDでは、農学部で、企業の協力を得て実施された正課外活動「KANTENプロジェクト」において、学生が考案した製品アイデア「華やKANTEN生け」～寒天の保水性を活かした水替え不要の花生け～を、実用新案登録出願した事例について、農学部の神戸教授にご講演いただく。 また、本学農学部における特許出願件数、登録件数、実用化実績や、研究成果の知的財産化までの流れについても紹介する。	○	45
教養教育・学部共通 コース	2022年9月14日(水)	第1部 11:00~12:30 (22号館201教室) 第2部 13:30~14:30 (Zoomミーティング)	本学教職員	オンラインツールを用いた教育の質的向上に関する実践的研究 ＜第1回研究会＞ 大規模授業におけるアクティブラーニングの具体事例 —大教室での実演と成果の活用例—	手嶋 英貴 (法学部教授)	■ 第1部(90分):「Google Meet を使った大教室でのアクティブラーニング」(22号館201教室) 手嶋がファシリテータとなり、チャット機能を活用した履修生同士の意見交流、小グループでのディスカッションを模擬実演します。参加者の方々には履修生役となって、ファシリテータの案内のもと「授業におけるオンラインツール活用の課題と工夫」といったテーマでの意見交流をしていただきます。この模擬実演を通して、大教室・大人数のシチュエーションで双方向型のアクティブラーニングを行う方法を紹介いたします。 ■ 第2部(60分):「オンラインツール活用の可能性と課題」(Zoomミーティング) 第1部のチャット記録や動画ファイルを使った成果物の作り方、授業への有機的な結び付け等の実例を紹介します。その上で、研究会全体の振り返りや、参加者からの問題提起、アイデア提示など、自由討論の形で意見交流を進めます。	○	16
教養教育・学部共通 コース	2022年11月30日 (水)	深草学舎・和顔館 201 教室 オンライン(Zoom)併 用	本学教職員	オンラインツールを用いた教育の質的向上に関する実践的研究 ＜第2回研究会＞ 失敗だらけのオンライン授業—— スリム化 への軌跡を振り返る	築地 達郎 (社会学部)	今年度は「オンラインツールを用いた教育の質的向上に関する実践的研究」というテーマのもと、学内教員が個々に試行したりしてきたアイデア、スキル等を皆で共有する活動を進めています。 第2回の研究会を上記の要領で開催いたします。ご関心をお持ちの方は、ぜひ気軽にご参加ください。	○	15
教養教育・学部共通 コース	2023年2月27日(月)	オンライン開催	本学教職員	オンラインツールを用いた教育の質的向上に関する実践的研究 ＜第3回研究会＞ 三大学連携における遠隔講義の可能性 と課題 —「機構」と「大学」の狭間で lost in distance	升井 洋志(ますい ひろし)先生 (北見工業大学 情報処理セン ター センター長・教授)	今年度は「オンラインツールを用いた教育の質的向上に関する実践的研究」というテーマのもと、研究活動を進めています。その第3回の研究会を上記の要領で開催いたします。今回は、升井洋志先生(北見工業大学・教授)によるご講演です。北海道内の3国立大学(北見工業、小樽商科、帯広畜産)は一つの国立大学法人「北海道国立大学機構」となり、各キャンパスをまたぐ遠隔授業の運営について多くのノウハウが蓄積されています。升井先生からそのポイントをご紹介します。	○	11